



しもあか

二輪草学びのエリア

(赤塚三中・赤塚小・赤塚新町小・紅梅小・下赤塚小)

令和7年 10月 31日

板橋区立下赤塚小学校

校長 菊池 宏一

学校便り NO. 7

ホームページ

<https://www.ita.ed.jp/1310293>

フルスペック運動会を終えて

教務主幹 桑島 孝博

朝夕の風にはひんやりとした冷たさが感じられ、季節の移ろいを感じる頃となりました。保護者の皆さまには、日頃より本校の教育活動に温かいご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、10月25日（土）に予定しておりました運動会は、残念ながら雨天のため延期となってしまいました。子どもたちはそれまで一生懸命に練習を重ね、当日に向けて気持ちを高めていただけたに、朝からの雨を見上げてとても残念そうな表情を浮かべていました。しかし、気持ちを切り替え、3日後の10月28日（火）、秋晴れの空の下、無事に運動会を開催することができました。当日は、子どもたちの元気な声と笑顔が校庭いっぱいに広がり、応援の声や拍手が絶えない、まさに「みんなで作る運動会」となりました。延期による日程変更にもかかわらず、温かくご理解・ご協力をいただきました保護者の皆さま、地域の皆さまに心より感謝申し上げます。

今年の運動会は、2019年以来、実に6年ぶりとなる「フルスペック」での開催でした。ここ数年は学年ごとの開催や競技の縮小など、様々な制限のもとで実施してまいりました。しかし今年は、全校児童が一堂に会し、応援合戦や選抜リレー、団体競技、表現、開会式、閉会式など、かつてのほぼ全てのプログラムを行いました。校庭で元気いっぱいに走る子どもたちの姿、仲間と声を掛け合いながら懸命に競技に臨む姿を目にしたとき、本来のにぎわいと活気が戻ってきたことを実感し、胸が熱くなりました。

また、今年は新たな取り組みとして、運動会のトラック内に保護者の皆さまが入ることができる「特別撮影エリア（特撮エリア）」を設けました。これは、本校校長の発案のもと、教員やPTA、おやじの会が協力して準備した取り組みでした。子どもたちの頑張る姿をより近くで見守り、カメラに収めていただけたようにしたこの試みは、いかがだったでしょうか。子どもたちにとっても、ご家族が近くで見守る中での競技は大きな励みになったことと思います。

運動会は、単なるスポーツイベントではなく、子どもたちにとって大切な学びの場であり、我が国の学校教育の中でも長い歴史のある行事、学校文化の一つです。仲間と協力し、力を合わせて目標に向かう過程には、たくさんの学びが詰まっています。思うようにいかずに悔し涙を流した子、練習を重ねて成功をつかんだ子、それぞれの経験が、子どもたちの成長の糧となると信じています。勝ち負けだけでなく、「最後まであきらめず全力で取り組む」「友達と力を合わせる」「努力して一つのことをやり遂げる」といった姿勢は、まさに運動会という行事が育む貴重な心の成長です。

こうした行事が積み重なっていくことこそが、学校文化の豊かさにつながっていきます。運動会を通して得た達成感や感動を、これからの学習や生活の中에서도生かしていってほしいと思います。



特撮エリアかと徒競走を走る子供たち

11月の予定

※ＳＣ・・・スクールカウンセラー

※予定が変更される場合があります。ご了承願います。

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3 文化の日	4 読書 ＳＣ相談日	5 委員会	6 読書 遠足（１年）	7 Ｓ時程 読書週間終	8 板橋農業まつり
9 板橋農業まつり	10 朝会	11 Ｓ時程 就学時健診 ＳＣ相談日	12 科学館移動教室 （４年）	13 避難訓練 なかよしロング	14 ＮＩＥタイム	15 寺子屋教室
16	17 保健朝会	18 水曜時程 クラブ活動	19 Ｓ時程 校内研究授業 （６年２組）	20	21 ＮＩＥタイム 集会	22
23 勤労感謝の 日	24 振替休日	25 ＮＩＥタイム ＳＣ相談日	26 委員会	27	28 ＮＩＥタイム Ｓ時程	29
30						

板橋農業まつりについて

11月8日（土）9日（日）に、板橋農業まつりが開催されます。今年度は下赤塚小学校も会場のひとつになっております。当日は本校体育館にて、3年生「しもあか大根研究所2025」の実践発表（掲示物）をいたします。是非ご来校ください。

研究授業について

11月19日（水）には、保健の授業で、6年2組が研究授業を行います。研究授業があるクラスは、下校が遅くなります。ご確認くださいませよう、お願いいたします。

2年 研究授業 体育科「マッ友 2025 ver.」 2年3組 武井 嘉之

2年3組の担任の武井嘉之です。10月3日（金）に体育科でマットを使った運動遊びの第2時間目を研究授業として行いました。マット運動遊びは回ったり転がったり、手で体を支えたりなどの運動を通して、できた時に楽しさや喜びを感じることができる運動です。その一方、慣れない運動のために体の動かし方が分からず、苦手意識を感じる児童が多い運動でもあります。

昨年度の研究で「出会いの工夫」に重点に置いたことを受け、今回は運動の出会いにマット運動遊びを楽しく行うためのルールを教師たちが動画を通じて指導しました。それぞれの学級の児童は動画を見ながらマット運動遊びでのルールを楽しく学習し、実際に取り組む際にもルールを守って取り組みました。さらに「指導の個別化」に焦点を当てた授業を展開しました。本単位では最後に「マッランド」で楽しく取り組めるようにするために、回転の場、倒立の場、飛び越しの場の3つをそれぞれ楽しみ、工夫した場でさらに楽しみ、その過程で技能を高めるコツを見つける活動をそれぞれの授業で行いました。



研究授業当日の第2時では回転系の運動である鉛筆転がり、前転がり、後ろ転がりについて運動を通じて楽しみ、場を工夫して楽しむことをしました。最初に「やってみようタイム」としてマットを広げ3つの運動に取り組みました。運動に取り組む中で「たくさん回りたいな。」「上手に後ろ回りができないな。」といった声が出てきました。そこで、全体で集まって工夫できそうなことを出し合いマットを長くした場や、踏み切り板を挟み込んで坂道になった場から自分が見たい場を選択して取り組みました。「坂道になると、平らなマットの時よりも転がりやすくなった。」と回りやすくなったことで楽しさを見出した児童や「マットが長くなったから前回りや鉛筆転がりを組み合わせたい。」と、更なる楽しさを見つけた児童もいました。

今回の授業を通じて、低学年の体育ではまず楽しむことが大事であること、そのための場の設定や単元計画を綿密に考える必要があることを学びました。実際に児童の姿は生き生きと活動に取り組む姿が印象に残っております。これからも児童が楽しく学習できる授業作りを行ってまいります。

